
あの日の思い出After ~ 交流の街TOWN ~

雷那

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

あの日の思い出After 〈交流の街TOWN〉

【Nコード】

N1581BA

【作者名】

雷那

【あらすじ】

「交流の街TOWN」。

アイコンチャットと同じくたくさんの出会いや体験があった場所。

今回は交流の街TOWNで繰り広げられたくるあとタウンメンバーが繰り広げる愉快な物語です。

この小説は、「あの日の思い出」の外伝的な作品です。

これを読む前に「あの日の思い出」を読んでおかないとたぶ

んというより絶対意味がわかりません。

短編で書いていましたが長編へと変更しました

思い（前書き）

この小説は、「あの日の思い出」の外伝作品です。

思い

アイコンチャットそれは僕にとってかけがえのない場所。

そこではたくさんのお会いがあった。

そして楽しいこと悲しいこと辛いことなど様々なことがあった。

そんなことがあったからこそアイコンチャットが僕にとってのかけがえのない場所になったんだと思う。

そしてもう一つアイコンチャットと同じくらい大切な場所がある。

「交流の街TOWN」。

アイコンチャットと同じくたくさんのお会いや体験があった場所。

そんなこんなで今回は交流の街TOWNで繰り広げられた僕とタウンのメンバーの愉快？な物語

交流の街TOWN

8月22日。

夏休み終了まで残りわずかとなっていた。

僕は相変わらずすることもないので冷房をつけてパソコンの前に座っていた。

くろあ：こんー

タモリ：おいつす！

めぐ：くろあさんこんにちわw

ファイナルアサシン：こんちゃ〜

りよっち：こんにちは。

いちご：あ、くろあだw

いつもと同じく交流の街TOWNにはおなじみのメンバーが揃っていた。

こんな時間から結構人が居るってことはもしかして皆暇なのかな？
まあ僕は人のこと言えないんだけど・・・。

めぐ：夏休みも残り少なくなってきましたねえ。。

いちご：そうだねえ、あと1週間しかないよw

ファイナルアサシン：それを言うなよ、鬱になる・・・。

りよっち：同じくです・・・。

皆が考えていることは同じようだし。やっぱり皆は似たもの同士のようだ・・・。

タモリ：そんな話はどうでもいいが、それよりくろあ最近どうよ？
くろあ：いや、いきなり最近どうよって聞かれても・・・。昨日夕

モリと会っただろ？

昨日タモリとは他の友達と一緒に遊びに行っただけだ。
ちなみにタモリと僕はリアルで友達同士である。

タモリ：違う違うw w全くくるあは天然だなあw

めぐ：確かにくるあさんって天然なところありますよねw

くるあ：天然って言われてもな……。ていうかタモリは何が言いたいんだよ？

タモリ：そんなの決まってるだろw最近彼女とはどうなってるか聞
いてるんだよw

いちご：あー！私もそれ気になってたw

りよっち：そういえばくるあさん彼女さんができたんですね。

ファイナルアサシン：俺も気になるぜ！！

めぐ：私もタウン内の結婚相手として気になります！！

タモリが余計なことを言ったせいで、皆が急にいきいきとし始めた。
タモリが言う彼女とは「むらあ」のことだ。タウンの方では「羅夢」という名前だ。

むらあとは先日行われたアイコンチャットでのオフ会の時にめでた
く付き合うこととなった。

むらあというより彼女ができたということはアイコンチャットだけ
ではなくタウンの方で僕と仲良くしている人たちには教えていた。
今思えば教えなかった方がよかったのかもしれない……。

くるあ：どうって言われても普通だけど……

ファイナルアサシン：普通って……、もっと具体的に言えよw

いちご：そうだよ、絶対なにかやってるでしょ！

くるあ：そうだな……。基本毎日メールや電話はしてるよ。それ
にチャットの方もしてるし。

めぐ：え、それだけなんですか？

くろあ：うん、そうだけど・・・。

タモリ：嘘だっ！ありえないだろ！恋人なんだぞ！もっとなんか別のことするだろ！！

タモリが言ってる別のことって一体なんのことだろうか・・・。

くろあ：そんなこと言われても遠距離恋愛だし。

リアルで僕とむらあが住んでいる場所は結構離れている。なので会いたくても会えない。

いちご：そんなの関係ないよ！距離なんてがんばればなんとかなるよ！

りよっち：そうですよ。くろあさんあなたならできるはずですよ！

タモリ：そうだぜ！突き進めくろあ！

なんで皆はこんなに熱くなってるんだろうか・・・。

くろあ：いや、皆がそう励ましてくれるのは嬉しいんだけど明らかに無理だつて。会いに行きたくてもお金が物凄くかかるんだよ・・・。それに学生だし金そんなにあるわけじゃないし。

というより本当は僕が急にむらあに会いに行く勇気がないってこともあるんだけど

めぐ：確かにそうですよね・・・。

りよっち：まだ僕たち高校生ですもんね。。

くろあ：そうだろ。だからしょうがないんだよ

やっと皆わかってくれたようだな。少しは考えてくれるといいんだ

けど……。

タモリ：いや、まだ納得できん！

人がホッと一息つけたと思ったらまだ一名納得いつてないやつが居るとは……。

くろあ：だから、タモリ無理なんだって。お前だつてわかるだろ？

タモリ：わからん！それよりくろあ、今から彼女を連れてこい！！

くろあ：え、お前何言つてんだ？

ファイナルアサシン：お、なんか楽しくなりそうな展開だな！

タモリ：いいから、いいから！早く呼んで来い！お前が言つたら絶対来るだろw

なんだかめんどくさいことになってきてしまった。でも、ここで呼んでこなかったら余計めんどくさそうになりそうだ……。

くろあ：わかつたよ……。呼んでくるからちよつと待つててくれめぐ：さすがくろあさんw

僕は少しだらだらしながらもむらあにメールを送ることにした
事情を書き最後にどうにか来てくれないかと書いてメールを送った。

メールを送つたすぐ後にむらあからのメールの返事がすぐにきた。
メールを読んでみるとどうやら来てくれるらしい。しかもメールの
文面からして乗り気のようだ。

僕としては断つてくれてもよかつたのだが……。

メールが終わつたのでタウンに戻つてみると入室者にきらが増えて

いた。

くろあ：きら来てたのかw

きら：ふん！俺だけこんな面白そうなこと仲間はずれにしようしやがって！

くろあ：いや、全然面白そうなことじゃないんだが……。

タモリ：それより、くろあ。むらあさんは来てくれるのか？

くろあ：ああ。すぐ行くだってよ。

いちご：うわあ、ほんとに来てくれるなんてwなんか色々期待w

こんな感じで会話をしているとついにむらあというより羅夢がやってきた。

羅夢：皆お久しぶり〜w

タモリ：お、来た来たw

りよっち：こんにちは、お久しぶりです羅夢さん。

きら：…ういーっす！

いちご：お久しぶりですwくろあとの事は色々聞いてますよw

くろあ：ちよつと待てよ、お前らは誰から色々聞いてるんだよ！

羅夢：まあまあくろあw私たちが仲が良いってこと知られてるのは嬉しいことじゃないw

確かに仲が良いことはいいことなんだが僕としてはからかわれてる方が多いような気がするんだが……

めぐ：それより、羅夢さん！一体くろあとはどこまで行ってるんですか！？

ファイナルアサシン：おおー！いきなり直球だなw

羅夢：ん〜どこまでって言われてもね〜。。

きら：むらあ正直に言ってくれよwこのチキンのくろあがどこま

でしたとか気になるからな!!

羅夢：私も色々と言いたいんだけどあのオフ会から特にこれといった進展がないんだよねえ・・・

ファイナルアサシン：なんだなにもないのかw

くろあ：だから言っただろなにもないって。

羅夢：でもでも、ちゃんと毎日メールと電話はしてるんだよwくるあは恥ずかしがり屋さんだからメールの方が多んだけどねw

いちご：うわあ、なんてうらやましいw

めぐ：なんだか妬けちゃいますねえ・・・。

きら：だが、それだけじゃあまだ物足りないな!!

ファイナルアサシン：それだけって、他になにかあるのか？

きら：もちろん！俺ともこたんみたいにちゅっちゅっちゅとじゃれ合っていないじゃないか!!

くろあ：お前はなに言ってるんだよ・・・。それに絶対お前が言ってること嘘だろ。。

あのもこがきらとそんなことをやっているとか想像できないし。それにもこだったらきらを簡単にあしらうだろう。

タモリ：だけどきらの言ってる通りかもな。やはり実際に会わないとな。

羅夢：それは私だってわかってるよ。私は毎日くるあに会いたいくらいだしそれにもっとくるあとじゃれあいたいものw

いちご：羅夢さん大胆発言すぎですw

相変わらずむらあは恥ずかしいセリフを普通に言うな・・・。しかも皆の前で・・・

きら：よし、決めた!!

りよつち：なにをですか？

どうやらきらはなにかを決心したようだった。別にきらのことだから大したことではないと思うけど

きら　：第1回交流の街TOWNのオフ会を開催しようと思う！！

今さっき僕が思ったこと撤回……。全然大したことであった。

くろあ　：ちよつと待てよ、この間オフ会開いたばかりじゃないか！？

きら　：それはアイコンチャットの方でのオフ会だった。今回は交流の街TOWNとしてのオフ会だぞ。それに俺様は優しいからお前たち二人のために開いてやるんだからな。

くろあ　：でも、さすがにこんないきなり決めても皆は……。

羅夢　：へえ、たまには気を利かしてくるんだね、きらw私は賛成！だつてくるあに会えるんだもの！

いちご　：私も賛成！皆に会えるの楽しみwよし咲月達にも教えてあげなきゃ！

りよつち　：僕も行けるようなら行ってみたいですw

タモリ　：そろそろとは思っていたが今がいいタイミングかもな。よし、俺も賛成！

ファイナルアサシン　：よっしゃ！この日が来るのを待ってたぜwめぐ　：私も皆さんと会えるのが楽しみです。

どうやら皆はオフ会を開かれるのに賛成のようだった。

きら　：それじゃあ皆でオフ会の開催日と開催場所を決めるか！！

こうしてきらを開催者としてオフ会の日程決めなどを皆で考えるこ

とになった。

そして皆で考えること1時間ほど・・・。

きら　：よし！これ決定だな！！

やっとオフ会の開催日と開催場所が決まった。

開催日は夏休み終了間近の8月29日。というよりちょうど1週間後だ。

そして開催場所は前回アイコンチャットのオフ会の時行われた場所と同じである。

タモリ：いやあ、楽しみだなwサナトスも呼んでやるかあ。

ファイナルアサシン：その日は楽しみまくるぜw

いちご：早く29日にならないかなあ。。。

めぐ：オシャレしていかないですねw

りよっち：道に迷わないといいんだけどw

皆はどうやらウキウキしているようだった。僕はこの前のオフ会で相当お金使ったから財布が心配なんだけど・・・。しかも神経もかなり使ったし。

羅夢：うーん、こんなに早く2回目のオフ会が行けるなんて。凄く楽しみだよwね、くろあ？

でも確かにむらあに会えることは悪いことじゃなくむしろ全然嬉しいことだし。なんていったって彼女なんだから。お金とかのことな

んて大したことじゃないよな

くろあ・そうだね、僕も楽しみだよw

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1581ba/>

あの日の思い出After ~ 交流の街TOWN ~

2012年1月5日00時48分発行